

# 山行報告書

京都田辺山友会

平成26年7月8日 報告者 中島貞夫

山名	比良山系 釈迦岳—武奈ヶ岳	山行名	夏山トレ
ルート	北小松—元気村—揚梅ノ滝—涼峠—ヤケ—ヤケ山—釈迦岳—八雲ヶ原—武奈ヶ岳—コヤマノ岳—中峠—金糞峠—イン谷 = 平安バス		
山行日	平成26年7月6日	天候	曇りのち雨
参加者	リーダー： 中島貞夫 サブリーダー： 染矢つや子 男性： 金本好彰、 女性： 徳田幸子、 頼 礼子、 大谷典子、 吉野美智子 7名		

時間：

北小松・元気村 8:20—涼峠 9:00—ヤケ 9:40—ヤケオ山 10:45—釈迦岳 11:20～11:40  
—八雲ヶ原 12:15—武奈ヶ岳 13:35～13:50—中峠 14:25—金糞峠 15:15—大山口 16:20  
—イン谷 16:40—（バス）—京田辺 19:30頃

山行報告：

今年度の夏山例会、北アルプス裏銀座のトレーニングに、山行部で計画したコースの釈迦岳・堂満岳では距離不足と判断して、Cコース組だけ武奈ヶ岳を追加した。

登山口まで平安バスに送ってもらって、滝入り口からスタート。むし暑くて汗をたらしながらの登り

だが順調にヤケまで進む。途中から厚い雲の中に入り、心地よい風もあってヤケオ山の急斜面も、皆揃って登る。釈迦岳でイン谷からワングル路を登ってきたAB組が昼食を終えたところに合流、急に雨が降り出し急いで雨具を着て、行動食をとり武奈ヶ岳を目指す。すぐにAB組を追い越し八雲ヶ原からスキー場跡を直登してコヤマノ岳から武奈ヶ岳コースを進む。武奈ヶ岳直下で遊佐さんと遭遇、バスに乗れなかったのがので単独で登ってきたらしい。稜線に出ると強い雨風ですぐ下山する。コヤマノ岳から中峠まではなだらかな歩きやすい路だが、金糞峠までの谷沿いは崩れたところもあり、沢を何度も渡り解りにくい路だった。金糞峠から青ガレまでは大きな岩が点在する危険なところ、転ばないように慎重に下りる。大山口で傘をさして雨具の暑さから少し開放される。イン谷から比良駅までの路線バスに間に合えば助かると思って歩いていたが、思いもかけず平安バスを待つAB班に合流できて、新田辺まで楽をして帰ることができた。

雨の中の登山だったが、夏山トレーニングとしては距離も、時間も良かったと思う。

ヒヤリ・ハット

なし



## 比良縦走

大谷 典子

帰りはJRでと思ってイン谷に降りたら、見慣れた仲間が待っていてくださった。バスにのせてもらえて、なんとラッキーな。疲れた足には大変ありがたく感激でした。やっぱりロングコースはきつかったです。5年前、0メートルから登る富士山で、訓練のために歩いたコースと同じ。その時は暑い日でカラカラに乾いた喉に、川の水は甘露でした。それが災いして後に、高熱を出し富士山にはいかれませんでした。30周年記念事業を逃してしまい、今もって富士山には登り切れていません。本年は京都田辺山友会の35周年。私も入会して15年間山と共に過ごしてきた。色々学ばせていただいて、しんどかったとはいえこんなコースも歩けるようになってありがたいことです。

今日は、曇りと雨で涼しく歩きやすい一日でした。揚梅の滝登山口を苦も無く登りつめて、涼峠着。5人パーティの歩調がそろって皆さん何故か無言。後で聞けば、体力温存のため、セーブしていたとのこと。そこらのペース配分もやっぱり皆さんお上手です。ヤケ山からヤケオ山に至る登山道は、かなりの急傾斜の連続。覚悟していたのですが、案外楽でした。リーダーさんお上手でした。ゆっくり息の上がらないペースで、頂上に連れて行ってくれました。5分の休憩時間も正確。さあ出発と言ったら。即もう歩き出している。のんびりはしてられない。休憩の取り方も訓練されました。無駄なおしゃべりは慎みトレーニングに没頭。よい体験でした。武奈岳の頂上近くで、遊佐さんに出会えた時は、びっくりでした。よく一人でこられたものと感心いたしました。「急いでイン谷に下りられたら、バスと一緒に帰れますよ。」と、言葉を交わして別れました。私達は、武奈の頂上で風を避けて、釈迦岳でとりそこねた行動食の残りをいただいた。15分の休憩でいただくには、行動食にもそれなりの工夫が大切と感じた。樹林帯を歩いている時、雨で薄暗くて、足元がよく見えなかった。地面ばかり見て歩いていると、おでこをこっぴどく木にぶつけてしまった。しばし足が止まった。つるつる滑る青ガレの急坂も、誰一人転ばず無事に降りられました。比良のことをよく知っているリーダーさんの歩き方がよかったので、長い行程も安全にこなすことができた、染谷さんと中島さんに感謝です。

